

# 鹿屋体育大学 東京サテライト キャンパス通信

平成29年 10月31日

第 **78** 号

【発行】 国立大学法人鹿屋体育大学  
東京サテライトキャンパス  
ご質問、ご要望がございましたら、  
お気軽にお問合せください。



10月に入り、過ごしやすい日や肌寒い日があり、不安定な天候が続いていましたが、10月終盤になり、草むらからは秋の音色が聞こえるようになってきました。

78号では、平成29年度全日本大学対抗テニス王座決定試合の様子や日本版NCAAに関する本学の取り組みについて紹介します。

## 1 平成29年度全日本大学対抗テニス王座決定試合



10月10-14日に有明テニスの森公園において、平成29年度全日本大学対抗テニス王座決定試合が開催されました。今年度は、本学男女テニス部が九州地区代表として試合に臨みました。本大会は、各地域リーグを勝ち抜いた男女それぞれ10大学で争われ、女子はダブルス2本、シングルス3本の計5本、男子はダブルス3本、シングルス6本の計9本勝負で行われました。女子テニス部

は、1回戦からの登場で、北海道地区代表の北翔大学を5-0で下し、2回戦へ駒を進めました。2回戦では、昨年の優勝大学である早稲田大学と対戦し、0-5で敗れてしまいました。男子テニス部は、昨年に引き続き2回戦からの登場で昨年と同じく関西地区第一代表の関西大学と対戦を行いました。昨年は、シングルス2本とるなど健闘をしましたが、今回は、0-9で敗れてしまいました。女子

テニス部が対戦した早稲田大学は優勝、男子テニス部が対戦した関西大学は3位でした。今大会は男女ともにベスト8という結果でしたが、優勝・入賞チームに挑戦した経験は新チームにも引き継がれていくと思います。

本学テニス部は「部LOG」をはじめ「Facebook」や「Twitter」においても、試合の結果などを公開しています。また、東京サテライトキャンパスは今後も関東近郊で開催される全国大会での本学学生の活躍の様子を発信していきます。

<女子出場選手(2回戦)>

- ダブルス (英風紗・今村風沙)  
(長寄晴香・平原美咲)
- シングルス (今村風沙)  
(英風紗)  
(長寄晴香)

<男子出場選手>

- ダブルス (林大地・浅田幸輝)  
(宇野敦也・岡村浩太)  
(森脇亮太・田代翔)  
(田代翔)
- シングルス (北村翔平)  
(林大地)  
(浅田幸輝)  
(森脇亮太)  
(岡村浩太)

## 日本版NCAA「KANNOYAモデル」始動！！

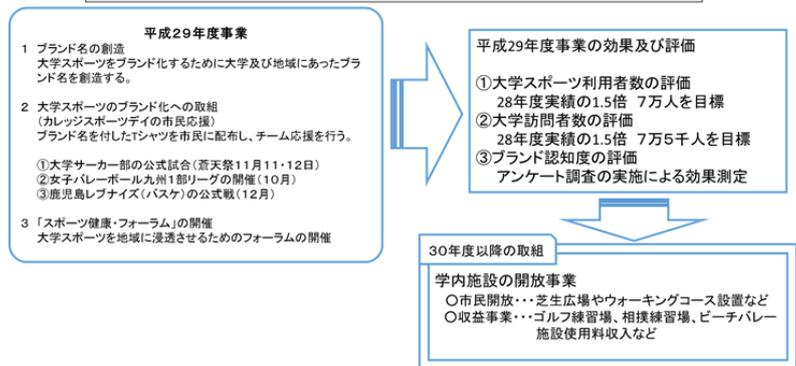
2

### 平成29年度大学スポーツ振興の推進事業選定大学一覧

大学名	取組の具体例
1 青山学院大学	・青学オリジナル駅伝大会の実施 ・大学施設を拠点としたプロバスケットチームのホームアリーナ化の更なる取組
2 大阪体育大学	・スポーツ局の開設とスポーツ振興事業の統括、大学間連携の推進 ・地域やスポーツ団体との連携による社会貢献型事業の推進
3 鹿屋体育大学	・スポーツアドミニストレーション部局の創設 ・鹿屋体育大学と地域共同によるスポーツ・健康ブランドの創設
4 順天堂大学	・順天堂スポーツ推進支援センター(仮称)の設置 ・ハラスポーツ体験教室の実施やハラスポーツ用品の開発
5 筑波大学	・アスレチックパートナーの設置 ・テンプル大学との協働によるスポーツアドミニストレーター育成 ・外部資金調達に関する検討
6 日本体育大学	・日体大アスレチックパートナーにおける運動部担当係の創設 ・マイナー競技のスポンサー獲得に向けた取組
7 立命館大学	・大学間の連携、大学横断的組織としての関西コンソーシアムの検討 ・スポーツ活動と学修活動の両面の高度化に資する取り組みの支援
8 早稲田大学	・学生アスリートの学業成績分析とWAP(※)検証・投資誘発戦略の検討 ・大学スポーツ・アドミニストレーター育成プログラムの開発 (※) 早稲田アスリートアカデミー

課題: 大学で行われている大学の活動及びスポーツ活動において、地域住民の理解不足があること。

### 大学スポーツ活動の「可視化」



大学スポーツの持つ潜在力(人材輩出、経済活性化、地域貢献等)を活かすため、大学スポーツに係る体制の充実を図る必要性から、組織運営管理や健全な大学スポーツビジネスの確立等をめざす大学横断的かつ競技横断的総括組織(日本版NCAA)の創設に向け、スポーツ庁から大学スポーツの活性化に全学的に取り組む大学へ、専門人材の育成や先進的モデル事業展開を目的とした委託事業の公募がありました。この度、全

国8大学が事業決定となり、本学も選ばれました。

本学は、地域に根差した大学として、地域のみならずへ大学スポーツを通じた地域サービスやスポーツの「みる・する・ささえる」体験を提供することにより、地域の活性化につなげる「KANNOYAモデル」の確立を目指します。平成29年度は、本学施設において大学スポーツやプロスポーツを観戦、応援するイベントを計画しています。

## 東京サテライトキャンパスの活動紹介

3



意見交換会の様子

東京サテライトキャンパス通信第73号において、テレビ会議システムを活用した取組「大学と企業との架け橋」について紹介をしました。9月には本学教職員とニューサウスウェールズ・ワラターズCEOのアンドリュー・ホア氏との留学プログラムに関する意見交換会が行われました。本会の開催にご尽力いただきました渡部寛氏(本学5期生)も同席されました。東京サテライトキャンパスにおいて鹿屋と東京を繋ぐことで、様々なメリットがあると考えています。本学教職員との打合せの際には、ぜひとも東京サテライトキャンパスをご活用ください。



国立大学法人鹿屋体育大学 東京サテライトキャンパス

〔開所時間〕 平日 9時 00分～17時 00分

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1 筑波大学・鹿屋体育大学連携推進室 341室

TEL 03-6902-1240 FAX 03-6902-1371 E-mail satellite@nifs-k.ac.jp

78